平成25年度(2013年度)アイランドキャンパス事業報告書

近畿大学文芸学部　文化・歴史学科
図師　宣忠

1　事業の概要

・事業名：文化資源学的アプローチによるエコツアー企画づくり
・テーマ：交流人口の拡大を図るための観光振興の方策について

・実施場所：瀬戸内町を中心に、奄美大島／加計呂麻島
・実施期間：平成25年8月29日(木)～9月4日(水)
・参加人数：教員2名／学生8名(うち大学院生4名、学部4回生4名)

2　事業内容

■ 目的・方法

近畿大学文芸学部では、文化資源学を教育の軸としており、学生自身が近隣の地域の文化資源を(再)発見し、マップや冊子の作成を通じてそれを発信し利活用する手立てを考える取り組みを進めている。そのノウハウを生かして、奄美大島のエコツアー企画・立案のための合宿を実施し、都市部の学生の目線で離島振興の手立てを考えたい。

大阪には奄美出身者も多く、都市部にいながら奄美料理の店などを通じて奄美文化の一端に触れられる立地にある。また近畿大学にも奄美出身者がおり、マグロ養殖場が瀬戸内町に設置するなど、大学自体と奄美のつながりも深い。

本学部が推進する文化資源学は、環境学、民俗学、社会学をはじめさまざまな分野が融合するかたちで、地域資源を多角的に掘り起こし、その保全と利用のバランスを考えながら活用の方策を探ることを目指している。その観点から、奄美の自然環境、歴史文化を持続可能なかたちで観光に生かす手法を学生自身の手で作り出したい。具体的には、UターンやIターンで離島暮らしを始める人たちの生活スタイルに注目して、都市部と離島をつなげる「言葉」を探り出し、その情報をマップと冊子という二形態で発信する。

A)　奄美で「遊ぶ」ことを重視

奄美で体験できる「遊び」を実際に学生たちに体験させることで、奄美の自然・文化を全面的に体感してもらう。そのうえで、若者たち自身の「言葉」で奄美の魅力を語ってもらう。学生の生の「声」を引き出すことが第一の目的である。

B) 地元の方々との交流を通じた「学び」

こうして奄美を体験・体感した学生たちの「声」を地元の方々（①地元で生まれ育った方、②U ターンの方、③I ターンの方）との交流のなかでお届けする。その交流を通じて、学生たちの奄美に対する「学び」も深まることを目指す。さらに奄美を知ることで、学生が自身を見直すきっかけを得る。

C) 奄美の文化の多角的な調査

民俗学的な聞き取りを行い、奄美の生活と文化を記録する。（おもな対象場所：瀬戸内町清水；奄美市名瀬大字根瀬部）

近大マグロ養殖場（瀬戸内町花天）に関する調査（マグロ養殖は海を汚す／若者の雇用、集落への定着が祭りなどの伝統文化の継承を支える）

D) 若者がつなぐ大阪と奄美

大阪近辺で奄美出身者が営む料理店を訪ね、学生とともに大阪における「奄美」を体感する。そのうえで大阪近辺の奄美料理の店のリストを作成する。（この春に実施予定）

ていだ（大阪府大阪市）／きゅらむん（兵庫県伊丹市）…

■「2013 年度文化資源学合宿 in 奄美」スケジュール

8 月 29 日（木）

8:30　伊丹空港（北ターミナル：JAL）集合

9:35　伊丹空港発（JAL2465）－11:10　奄美空港着

・あやまる岬にて昼食

・笠利：奄美市歴史民俗資料館見学（中山清美さんの解説）

・南海日日新聞社：久岡学さんの取材

・住用：マングローブ・カヌー体験

・瀬戸内町：清水公民館泊

8 月 30 日（金）

・清水集落探索／聞き取り

　・里力（さといさお）さん（93 歳）

　・カフェこんぶち・藤井洋一郎さん（けんむん村、けんむんフェスタなど）

　・ホライゾン編集室浜田さんの取材

・島唄ミニライブ

　・吉永秀親さん、古澤奈那美さん

・清水公民館泊

8 月 31 日（土）

・午前：花天にて、近大マグロ養殖餌つけ見学

・午後：古仁屋～（フェリー）～生間

・諸鈍～徳浜

・「さんご塩」の工場見学（榊藤光さんの解説）
・バーベキュー
・「加計呂麻自然海塩工房」提供の民家泊

9月1日（日）
・諸鈍散策／釣り
・諸鈍シバヤ保存会の方との情報交換
・島唄ミニライブ
・「加計呂麻自然海塩工房」提供の民家泊

9月2日（月）
・午前：生間～（フェリー）～古仁屋
・清水：マリン・レジャー体験（シュノーケリング・海釣り）（ボブマリン奄美）
・民宿ユートピアにて意見交換会（円山家の方々と奄美の仕事と暮らしについて）
・清水公民館泊

9月3日（火）
・午前：情報交換会「学生の奄美体験と観光について」（瀬戸内町郷土資料館）
・午後：清水→名瀬
・根瀬部集落探索
・八月踊りの練習に参加
・恵原義之氏宅に寄宿／根瀬部公民館泊

9月4日（水）
・午前：名瀬→奄美空港
12:35　奄美空港発（JAL2464）―14:05　伊丹空港着・解散

□参加メンバー
禰宜田麻紗子、俵和馬、中井健太、甘露、村井歩、亀田珠利亜、土井真理子、多鹿和賀代

■ 経費

番号	費目	用途	金額
1	交通費	貸切バス（8/29、9/3）	55,000円
2	交通費	フェリーかけろま（古仁屋～生間往復）（8/31、9/2）	5,200円
3	交通費	タクシー（清水～古仁屋間）（8/31、9/2、9/3）	6,300円
4	交通費	海上タクシー（古仁屋～花天）（8/31）	13,000円
5	交通費	根瀬部～奄美空港（9/4）	12,000円
6	宿泊費	清水公民館	30,000円
7	入浴代	ユートピア	6,000円
8	宿泊費	加計呂麻自然海塩工房	30,000円
		合計	157,500円

なお、伊丹空港～奄美空港の往復の航空券代については、旅行会社へ参加者各自の振り込みとしていたため、領収書を揃えることができず、ここには記載していない。

□ 領収書(写し):別添

3 情報交換会および成果報告会の開催

■ テーマごとの体験学習および情報交換

・奄美の歴史・文化について

2013年8月29日、中山清美氏(奄美市歴史民俗資料館)

・妖怪ケンムンについて

2013年8月30日、藤井洋一郎氏(清水集落・カフェこんぶち)

・島唄文化について

2013年8月30日、吉永秀親氏、古澤奈那美氏(清水公民館)

・「さんご塩」の工場見学

2013年8月31日、榊藤光氏(加計呂麻島徳浜、さんご塩工房)

・諸鈍の伝統民俗文化について

2013年9月1日、諸鈍シバヤ保存会(滞在先の諸鈍集落の民家)

・奄美の仕事と暮らしについて

2013年9月2日、(民宿ユートピア)

・八月踊りの練習に参加

2013年9月3日、恵原義之氏、根瀬部集落のみなさん(根瀬部公民館)

・その他、メディアの取材

・南海日日新聞社:久岡学氏(2013年8月30日社会面(8面)に掲載)

・ホライゾン編集室浜田百合子氏(『奄美の情熱情報誌ホライゾン』第38号、2013年12月15日発行に掲載)

■ 情報交換会

・実施日時:2013年9月3日(火)

・実施場所:瀬戸内町郷土資料館

・出席者:合宿参加者10名／伊藤悦郎さん(企画課課長)、町健次郎さん(学芸員)、小森由美子さん

■ 学内での成果報告会

・実施日時:2013年12月20日(金)16:30-18:00

・実施場所:近畿大学文芸学部A館306教室

・出席者:教員5名、学生15名

当日は教員・学生合わせて20名の参加を得た。報告会では、合宿の様子を伝えながら来年度の奄美合宿に向けて参加希望者を募るとともに、奄美の魅力について語り合った。別添の冊子は、この成果報告会での学生たちの話をもとに作成したものである。

□ 情報交換会・成果報告会の内容：別添の冊子を参照

文化資源学合宿 in 奄美

奄美の自然・文化・歴史を満喫する

文化資源学の実践的アプローチ

あやまる岬／マングローブ／近大マグロ養殖場

シュノーケリング／海釣り／島唄／八月踊り／妖怪ケンムン

近畿大学文芸学部　文化・歴史学科

若者たちが語る奄美の魅力

～近大生×奄美の文化～

あやまる岬

竜美本島東北端の太平洋上に突き出た岬。なだらかな地形が綾織りの手鞠に似ていることから「あやまる岬」と呼ばれるようになったと伝えられる。

奄美に着いて、私たちが最初に訪れた場所。ハイビスカスやアダンなど、駐車場の植生からして南国、という印象を受けた。飛行機の疲れも吹き飛び、浅瀬に浸かりながらしばし童心に戻った。魚はいるかと探したが、私の思った以上に海水温が高く、サンゴの白骨化も頭をよぎった。(Taw)

私たちが奄美に着いて最初に訪れた場所であったということもあり、非常に印象に残った場所であった。あやまる岬は、太平洋側に大きく開けている場所で、見た瞬間に海の広さや海の青さがダイレクトに伝わる場所であった。眺めているだけで海の美しさに心を奪われる場所であるように感じた。(Ne)

ここは私たちが奄美大島についてからまず最初に見た景色で、本に載っているような綺麗な景色の場所でした。特に施設もなくても景色を眺めたり遊んだりして楽しむことができました。(Taj)

空港から車ですぐのこの岬は、とにかく「これが奄美か・・」と思わせる絶景でした。綺麗や凄い、といった感情よりもただ溜息しか出てこない、そんな景色がそこにはありました。奄美に行った際には必ず寄って欲しいオススメスポット第一位です！ていうより、絶対行って下さい！！！(Do)

例年、この奄美合宿では奄美に到着したらまず行く場所が、あやまる岬です。奄美大島に初めて訪れた人は、あやまる岬の絶景に圧倒され、瞬く間に奄美大島の虜になってしまうはずです。空気も風も、そこから見下ろす海も、それからあの焼けるような暑さも、一度訪れると、忘れることができません。あやまる岬は、太陽が近くに感じられ、私が知る中では奄美で一番暑い場所です。とにかく暑いですが、奄美の自然を全身で感じられる場所です。(Mu)

奄美市歴史民俗資料館

中山清美氏に解説いただきながら奄美の歴史・文化に関する展示の見学

歴史民俗資料館では、短い時間ではあったが、古からの奄美の生活についてお話を聞いた。チョウガイのアクセサリーを見つつ、人間の美的感覚は今も昔も同じだなぁと感じた。個人的には、奄美の自然を展示したエリアがお気に入りである。地域に根差した博物館らしい剥製展示を見て、つい写真を撮ってしまった。(Taw)

歴史民俗資料館では、奄美の様々な歴史に触れることができた。そして、その歴史を今でも島の人たちが大切にしていることによって、島を大事にしていることへとつながっているように思えた。山や海に恐れを持つことで、山の神や海の神への祈りや祭りへと繋がるという話を聞き、島の

自然や島自身を大切にする想いが感じられた。(Ne)

歴史民俗資料館では奄美大島で発掘された古代の遺物のほかにも、奄美固有の生物の剥製やかつて人々が実際に使っていた漁具や家具などの民芸品が展示されていた。合宿の後半に訪れた瀬戸内町の郷土資料館やフィールドワークの際に訪れた里さんのお宅もそうであったが、奄美ではこうした実際に使用されていた古民具が大切に保存されていたのが強く印象に残った。(Na)

私が海のない奈良県出身だということもあるせいか、海に関する資料の多さに戸惑ったほどです。初めて見る生き物ばかりで、まるで日本ではないようでした。植物も魚も鳥も、種類の豊富さに、奄美は日本のアマゾンのような場所だと感じました。(Mu)

マングローブ原生林

奄美観光の目玉のひとつとしてのマングローブ探索

住用町のマングローブ原生林を巡るカヌー体験を通じて奄美の生き物・自然を体感

人生初のマングローブを、人生二度目のカヌーに乗り悠々と進んでいった。その水面に映る木々の風景はさながら絵画のようで溜息が出た。誤解されやすいが、マングローブは固有の植物の名ではなく、汽水域に成立する森林のことで、構成している木々の多くはヒルギという植物である。マングローブは多様な生物相を有し、私たちが見ただけでもトビハゼやアナジャコなど、さまざまな生物の息遣いが感じられた。(Taw)

生まれて初めてみたマングローブ林に圧倒された。まるで、どこか違う国の自然に触れたようであった。自然の豊かさや温かさを間近に感じることができるような場所であった。(Ne)

大規模のマングローブ原生林が広がり、かねに乗って、きれい風景を見ながら、専門のガイドが生き物などについての説明を聞く、すごく楽しかった。(Ka)

とにかくカヌーは腕がしんどかったです。しかし、珍しいマングローブやそこに住む生き物を間近で見ることができるので、貴重な体験になったと感じています。また、生き物のことになると普段に増して喋り倒す俵さんのお陰で、知識も得ることができました(笑)(Do)

瀬戸内町清水集落

清水の公民館を拠点に自炊生活；集落探索；古老からの聞き取り

ポプマリン奄美のマリン・レジャー体験（海釣り・シュノーケリング）

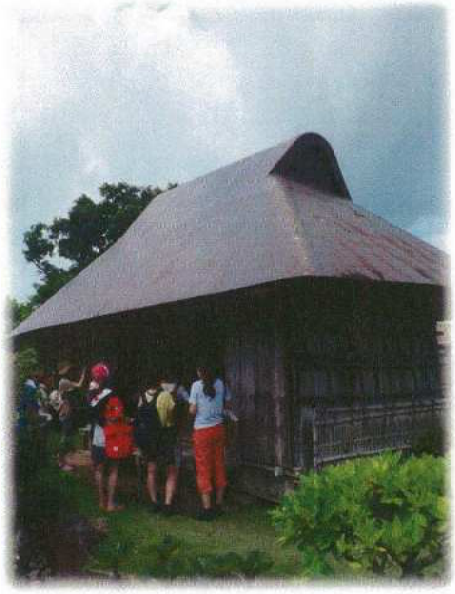
清水の暮らしと文化

里さんに奄美での生活についてお話を伺う

清水地区でのフィールドワークで最初にお話を伺ったのは、元猟師で「奄美のブッシュマン」と呼ばれる里力さんであった。今年 93 歳になる里さんからは、自らの猟師生活で経験した自然についてや、戦時中から米軍占領時代にかけての生活についてなど貴重なお話を多く聞かせていただいた。自然環境に関する話を聞いていく中で何度も出てきた、「最近は見られなくなってしまった」という言葉には、野山に深くかかわって生活してきた里さんだからこそわかる奄美の環境の変化を感じさせ、里さんの語る奄美の自然は今は失われつつあるのだということを突きつけられた気がした。そうした貴重な話を実際に聞くことができたのはこの合宿の中でも一番の幸運であったと思う。(Na)

72 年間狩りをしていた。
罠も使ったが、銃猟が主だった。
イノシシ、クロウサギ、デージロー(ケナガネズミか？)、オットンガエルが山にいた、シカはいない。
クロウサギは穴を煙で燻して捕まえた。骨が小さく肉が多い。煮て食べた。
オットンガエルも食べた。身ばかりだった。
ミカンコメバエの大量駆除で環境が変わった。
イノシシが通る道は決まっている。木に切り傷やヌタ場がある。
どの木を牙で傷つければどんな油が出るかを知っている。
草を食べ、虫下しをする。

ソテツで焼酎や豆腐を作った。
ソテツの汁は毒があり、牛馬が飲むと死んでしまう。

キビナゴの群れにサバが集まっていた。
キビナゴが増え、網が持ち上げられないほど捕れたときがあった。
50 ヒロの網を使った。

ケンムンが海岸で塩作りを邪魔する。
チヌを釣って置いておいたら、あっという間に目玉がなくなっていた。
親子で木の上にいるケンムンを見た者がいる。
畑でサトウを作っているが、夜に臼を回していた。
兵隊が何人も見ている。砂浜にたくさん足跡がついていた。(Ta)